

# 市長選の結果をふまえ、いまこそ「市民がど真ん中」の市政を!

市長選後初めての市議会定例会。20人の議員が国宝の太刀、山鳥毛の取得断念問題、(仮称)上越市体操アリーナなど改革などで質問しました。私は13日、市長



私の一般質問のうち、市長選の結果、原子力災害対策についてのやりとりの大要をお知らせします。

【橋爪】市長選挙は8年前は3つ巴、今回は一騎打ちという形の大激戦となった。票差は1462票、まさに「薄氷の勝利」だ。選挙結果をどう受け止めたか。また、市長は記者会見で「3期目はもう一度原点に戻って、歩きたい」と言われたが、どのような市政運営をしていくのか。

【村山市長】選挙の結果をみると、今後のまちづくりの方向性、特に地域自治区の在り方に対する考えについて、市民の皆様には様々な受け止めがあったのではと感じている。これまで以上に丁寧な説明に心掛け、また、市民の皆様の声をお聴きしながら、子どもや孫の世代にわたって信頼に値する、「確かな明日へ」とつながる、責任ある



取組を着実に進めて参りたい。【橋爪】選挙では大きな批判票が出たのかの分析が大事だ。反省材料はなかったのか。

【市長】反省を求められても何とも言ってみようがない。今回は半分いただいた。いままでやらせていただいたからこそ次が見えるようになった。これからも市民を中心にしながら一緒に歩きたいと思っている。

## 福島事故はまだまだ収束せず

【橋爪】私は「福島第一原発事故は未だに収束していない」と見ているが、市長の認識はどうか。避難方法についての調査、研究はどこまで進んだか。当市ではこれまで2回の原子力防災訓練を行ったが、その意義、成果と課題についてどう整理しているか。

【市長】現在も、福島県内外に5万人を超える方々が避難されており、住居や雇用の確保など生活再建に係る課題も山積している。事故は収束したとは言えない状況にある。

国の「柏崎刈羽地域原子力防災協議会作業部会」にオブザー

バーとして参加し、避難ルートが通行止めになるなどの複合災害を想定した机上訓練を実施し、訓練結果を踏まえた防護対策の課題について検討している。また、県の「広域避難対策等検討ワーキングチーム」では、スクリーニングを実施する避難退域時検査場所の候補地の選定や、検査の実施方法について検討を進めたほか、避難ルートや避難手段、避難者の受入態勢についても検討を行った。



【スミレ】スミレ科の多年草。漢字で「葍」と書きます。雪も降ったことだし、もう咲いている花はないと思っていたら、20日に吉川区小苗代の農道でこの花と出合いました。薄紫色の花を咲かせようとしていました。

防災訓練の意義は、まさに「備えあれば、憂いなし」だ。今回の訓練は、現行の当市の「屋内退避・避難訓練」で行える最大限の範囲で実施したものだ。職員の原子力防災の特殊性の理解や対応能力の向上が図られた。また、屋内退避訓練や、当市の訓練としては初めてとなる、一時集合場所における安定ヨウ素剤服用時の注意事項に係る説明、放射性物質の付着を検出するスクリーニングのデモンストラーションなどを行った。UPZ(原発から30km以内)にお住いの皆さんの原子力災害に対する意識啓発が一定程度図られたと思っている。複合災害時の対処などまだまだ多くの課題がある。

## 文化会館大ホール、「車いす専用スペース」表示へ

村山市長は13日、「(来年)2月にも、館内(大ホール)の床面に左右6席ずつ車いす専用スペースの表示を行うとともに、後方の座席については、付き添い者の優先席に」することを明らかにしました。いままで以上に使いやすくなりますね。これは、日本共産党議員団の平良木哲也議員の一般質問に答えたものです。



はしづめ法一の  
活動レポート

No.1838 2017.12.24

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第四八六回

### 幼友達

大島区板山の伯母が亡くなったのは昨年  
の一月半ばでした。伯母が亡くなったこ  
とで、女四人、男三人の七人キョウダイの  
うち生きてるのは母だけになりました。  
あれからもう一年になります。

キョウダイがいなくなつて、母が頼りに  
できるのは家族です。でも、何かさみしい  
のでしょうか。子どもの頃の幼友達（おさ  
なともだち）などずっと同じ時代を生きた  
人たちが時どき恋しくなるようです。

先だつての午後、たまたま私の時間があ  
いたので、「どうしんね、『杉』（屋号）  
のかちやんとこへ行ってみるかね」と母に  
声をかけました。すると母はすぐに、「う  
ん、行く」といいます。早速、「杉」の家  
に電話を入れて都合を聞き、了解をもらい  
ました。母は急いで支度をしました。

「杉」のかちやんというのは母が生まれ育つ  
た旧大島村竹平の実家のすぐ下に住んでい  
た人で、板山の「杉」に嫁いだキエさんの  
ことです。母よりも五歳年下ですが、気持  
ちが合うのか大の仲良しで、よく電話をか  
けたり、電話をもらったりしています。

母を車に乗せて、走らせようとしたとき  
でした。庭にあるピンク色のサザンカの花  
が母の目に入ったようで、「サザンカ、一  
輪持って行こさ」と私に言いました。母は  
キエさんが喜ぶだろうと瞬時に判断したの  
でしょう。すでにサザンカは花の盛りが過  
ぎていましたので、なるべく長持ちしそ  
うな花をひと枝とつて母に渡しました。

四〇分ほどでキエさんの家に着きまし  
た。家の周りには一層近い雪が積もつてい  
ます。母の手を引き、冬の玄関で、呼び  
鈴を押すとキエさんが腰を曲げて迎えに出  
てくれました。

居間のコタツまで行ったところで、母は  
「はい」と言つてサザンカをキエさんに渡

しました。キエさんは、「まあ、サザン  
カ。水ん中に入れとかなきや」と言いなが  
ら、台所へ持つて行きました。この短いや  
りとりを聞いただけでも、二人の気持ち  
が通じていることがよくわかります。

電話してから板山に到着するまで一時間  
くらいしかなかったのに、コタツの上には  
いくつものご馳走が並んでいました。大根  
の酢漬、サツマイモ、五目豆、そして  
キャベツの下に豆腐と鶏肉のフライを煮た  
ものが……。キャベツは暖かい状態でした  
ので、おそらく、私と母が来るというの  
で、すぐに作つてくれたのでしょう。

ご馳走を見て、母が「杉んちに来た気が  
する」と言うと、キエさんは、笑いなが  
ら、「散らかつてるすけか」と言いまし  
た。すぐに母は、「なして、なして」と打  
ち消しました。

母は食欲が旺盛です。次々と箸（はし）  
を伸ばし、「このタケノコは『のうの』  
（母の実家の屋号）の向こうのオオダイラ  
バヤシ（地名）のタケノコか」「ごつつお  
で、ごつつおで、何から食べていいかわか  
らん。おまさん、ごつつおしの先生だ」な  
どとほめてはご馳走を食べていました。

「杉」の家にいたのは約一時間。話の中  
に子どもの頃から一緒だった地域の人たち  
のことが必ず出てきます。「いま旭で大正  
生まれの人は、竹平のトセさん、田麦のシ  
ゲトラさん、『ほしば』（屋号）のば  
ちや、板山の『日の出屋』（屋号）のば  
ちやかな」などと話はずんできました。

この日の帰り道、母は浦川原物産館に立  
ち寄り、ニンジン、キュウリ、玉ねぎ、さ  
さげなどたくさんの野菜を買いました。ま  
た何かを作ろうというのです。一輪の花を  
持つて行って幼友達と会つた、それだけで  
こんなにも元気が出るとは……。



## 中山間地でのコメづくり、 平場での圃場整備などに 支援してください！

市議会とJAえちご上越青年部  
初めて意見交換会開催

## 上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。  
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月13日(水)	12月20日(水)
上越南消防署	0.057	0.043
上越北消防署	0.057	0.047
新井消防署	0.050	0.040
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.040	0.050
東頸消防署	0.050	0.043
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.057	0.053

市議会広報広聴委員会主催で18日、JAえちご上越青年部の10人との意見交換会を行いました。市議は18人が参加しました。

青年部長の平野さんから青年部の活動報告をしてもらった後、3班に分かれて意見交換しました。

意見交換の中では「農業生産工程管理(GAP)の認証取得にはお金がかかるので長岡市のような農業生産工程管理推進のための補助金制度を上越市でも創設してほしい」「中山間地では、同じコメを作っても平場と同じ価格ではやっていけないほどコストがかかる。支援してもらいたい」「圃場整備を新たに取組む場合には2割からの面積について園芸作物な

どへの転換が迫られる。何とかできないものか」「学校給食で地場産野菜をもっと使用してもらうためには中間組織が必要ではないか」「コメ以外の作物へ挑戦したくても機械などの設備投資に見合うだけの収入が得られるかどうか分からない」「JAえちご上越青年部では、様々な課題とその対策についてまとめたポリシーブックをいま作成中。力を貸してほしい」などの声が相次ぎました。

若手農業者からは、意見交換会を毎年やってほしいこと、それも「第二部付き」でやってほしいと要請がありました。市議会が若手農業者と話し合うのは初めてでした。とても有意義な会でしたね。